

独立行政法人自動車事故対策機構に係る年度計画

独立行政法人自動車事故対策機構（以下「機構」という。）の中期計画を実行するため、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第31条の規定に基づき、機構に係る平成16年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日までの期間。）の年度計画を以下のとおり定める。

1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

（1）組織運営の効率化

本部組織においてマネージャー制を導入するとともに、検討委員会において、地方組織についてマネージャー制導入の検討を行い、組織運営の効率化を図る。

（2）人材の活用

適性診断業務において産業カウンセラー等の資格を取得した職員を全国的に82人以上適正に配置するなど、職員を積極的に活用する。

また、検討委員会において、職員の能力・実績をより適正に評価する基準の検討を行う。

（3）業務の運営の効率化

① 指導講習業務

ア 前年度（平成15年度）より実施している専任講師と同様の講習を行う職員の研修を終了し、育成した職員により専任講師が行っていた講義の10%以上を実施し、業務経費を削減する。

また、新たに専任講師と同様の講習を行う職員を育成するために、外部研修を10人に対して実施するとともに、新たに専任講師による講習の一部を行う職員を育成するために、運行管理業務等に関する内部研修を15人に対して実施する。

イ 前年度（平成15年度）に構築した受講者管理システムの活用を図ることにより業務の効率化を図る。

また、業務の効率化を図るため、新たにインターネット予約システムを構築し、試行的に東京主管支所に導入する。

ウ 引き続き、受講者が少ない開催場所を対象に、隣接県との共同講習を行う等により、新たに3会場以上の集約化を行う。

エ 引き続き、講習内容の充実や受講者・事業者の利便性向上等により、自己収入（平成16年度）を前年度（平成15年度）より向上させる。

オ 以上の措置を講じることにより、自己収入比率（平成16年度）について34%以上に引き上げる。

② 適性診断業務

ア 前年度（平成15年度）に基礎的研修を実施した25人に対し、引き続き、専門委員（大学教授等）による応用研修を実施する。

イ 前年度（平成15年度）に行った業務実態の分析に基づき、業務のマニュアル化を完了することにより業務の効率化を図る。

また、業務の効率化を図るため、新たにインターネット予約システムを構築し、試行的に東京主管支所に導入する。

ウ 引き続き、診断内容の高度化や受診者・事業者の利便性向上等により、自己収入（平成16年度）を前年度（平成15年度）より向上させる。

エ 以上の措置を講じることにより、自己収入比率（平成16年度）について34%以上に引き上げる。

③ 重度後遺障害者に対する援護業務

（療護センター）

ア 引き続き、医療水準・コスト水準等に関しタスクフォースにより外部評価を行い、その結果をホームページ等で公表する。

イ 前年度（平成15年度）に策定した経費節減の方策に従い、既存病床の運営経費（平成16年度）について、認可法人時の最終年度（平成14年度）の2%程度に相当する額を節減する。

(介護料支給)

電子データ化による支給額積算業務を実施するとともに、請求事務プロセスの見直しを検討する。

④ 交通遺児等への支援業務

ア 債権管理規程に基づき、効果的な債権回収を行うことにより、債権回収率90%以上確保するとともに、債権回収マニュアルを活用し、効率的な債権回収を行うことにより、債権回収経費（平成16年度）について、認可法人時の最終年度（平成14年度）比で14%程度に相当する額を削減する。

イ 引き続き、債権管理委員会において適切な貸付債権の評価を実施するとともに、リスクに応じた適正な引当金を計上し、その結果についてホームページ等で公表する。

⑤ 情報提供業務

自動車アセスメントを適切なコストで実施するため、前年度（平成15年度）に試験実施方法の合理化を図った試験の削減水準を維持しつつ、新たにブレーキ試験の試験準備のための試験機器等の確認項目数の見直しを行い、1台当たりのブレーキ試験実施費（平成16年度）について、認可法人時の最終年度（平成14年度）比で2%程度に相当する額を削減する。

⑥ 業務全般

業務プロセスの見直しを実施し、業務運営の効率化を図るとともに、一般管理費について、効率化に向けた組織体制及び給与体系の見直し等を実施し、前年度（平成15年度）予算の3%程度に相当する額を削減する。

2. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 指導講習業務

① 講習回数については、前年度（平成15年度）より増回するとともに、業態別の一般講習を全支所で実施し、事業者ニーズを踏まえつつ、事業

規模別の講習を実施する。

- ② 特別講習における少人数受講者参加型のグループ討議を盛り込んだ講習、最新の事件事例の研究分析に基づく事故再発防止のための運行管理改善手法を盛り込んだ講習を、引き続き、全支所で実施する。

また、一般講習において「危険予知トレーニングシート」を用いた講習を実施するとともに、15支所において視聴覚機器を用いた講習を実施する。

- ③ 事故防止コンサルティングを試行的に実施するにあたって、当該事業者を担当する支所職員に対する研修を実施するとともに、事故防止相談窓口を全支所に拡大し、事故防止コンサルティングに係る企業のニーズを収集する。

また、前年度（平成15年度）に実施した事故防止コンサルティングの実効性を検証するとともに、4社以上の事業者に対し企業コンサルティングを試行的に実施し、引き続き、知見の蓄積を行う。

- ④ 運行管理の現場における適性診断結果の利用実態の調査結果及び運行管理者を対象とした適性診断活用講座の実施結果を踏まえて、講習用教材を作成する。

- ⑤ 引き続き、受講者・事業者に対する調査を実施し、調査結果に基づき講習の実施方法等の改善を含めた講習内容の充実を行う。

- ⑥ 以上の措置を講じることにより、受講者・事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度（平成16年度）について、4.0以上とする。

（2）適性診断業務

- ① 業務実績等を踏まえつつ、更に、自動視野測定器を10台以上、貸出し用自動診断機器を50台以上導入し、受診者・事業者の利便性を向上させる。

また、アイカメラ・シミュレーターについては、引き続き、効果の検証を行うためにソフトウェアの開発及び実験を行う。

② 処置判断テスト・速度見越反応テストの結果に基づく助言内容を業態別等に改良するとともに、引き続き、最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法について、全カウンセリング担当職員に対して研修を実施し、適性診断の質を向上させる。

また、前年度（平成15年度）に策定した実施マニュアルに基づいた研修を職員に行うとともに、全主管支所において、適性診断活用講座を試行的に実施する。

③ 産業カウンセラーの資格取得研修を計画的に実施し、適性診断担当職員の75%以上の職員に資格を取得させる。

④ 引き続き、前年度（平成15年度）に構築したシステムを活用し、個人情報保護を図りつつ、事業者及び関係者に情報提供を行う。

⑤ 引き続き、受診者・事業者に対する調査を実施し、調査結果に基づき診断の実施方法等の改善を含めた診断内容の充実を行う。

⑥ 以上の措置を講じることにより、受診者・事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度（平成16年度）について、4.0以上とする。

（3）重度後遺障害者に対する援護

（療護センター）

① 引き続き、遷延性意識障害者に対し、病棟ワンフロアシステム、プライマリー・ナーシングや高度先進医療機器による高度な治療・看護を実施し、中期目標期間における平成16年度までの脱却者数を14名以上とする。

② 引き続き、平成17年度開業に向け千葉療護センターに介護病床の整備を進めるとともに、前年度（平成15年度）に実施した現状調査を踏まえ、各療護センターの入退院プロセスの構築について検討を行う。

③ 短期入院事業において、入退院の状況を勘案しつつ、東北・岡山・中部療護センターの有効活用を図る。

- ④ 引き続き、メディカル・ソーシャルワーカーにより、転院先情報の提供など患者家族に対する支援や、療護センターにおいて行う介護に関する知識・技術の情報の提供など在宅介護者に対する支援を強化する。
- ⑤ 療護センターにおいて実施されている遷延性意識障害者に対する高度な治療・看護の技術を一般病院に対して普及させるため、地元大学等との連携をとりながら10件以上の学会発表を行うとともに、引き続き、新たに短期入院事業に協力する病院への働きかけとして実務研修を実施する。
- ⑥ 地域医療機関との連携を図り、年間9,000件以上の高度先進医療機器の検査を受託する。

(介護料支給等支援業務)

- ① 引き続き、被害者の状況に応じた介護料の支給及び一般病院への短期入院費用に係る助成を行うことにより、効果的な被害者救済を図る。
- ② 介護相談窓口において、引き続き、介護福祉士等により積極的な相談支援を行うとともに、窓口に寄せられた相談内容から被害者のニーズの高い情報について、療護センターと連携を図りつつ、「介護だより」を通じて提供する。

これらの措置を講じることにより、5段階評価の調査における重度後遺障害者の家族への相談支援に関する評価度(平成16年度)について、4.0以上とする。

(4) 交通遺児等に対する支援業務

引き続き、交通遺児等に対して経済的な支援を目的とした無利子貸付けを行うとともに、同制度の利用対象者の保護者や子供たちの交流の場である「友の会」を運営し、「友の会だより」を発行するとともに、「友の会の集い」や「絵画コンテスト」を全支所において実施することにより、精神的支援を強化する。

これらの措置を講じることにより、被害者に対する5段階評価の調査における精神的支援に関する評価度(平成16年度)について、4.0以上とする。

(5) 広報活動業務

- ① 被害者保護を推進する観点から、引き続き、介護料支給業務及び交通遺児等貸付業務の案内パンフレット及びポスターを全市町村他関係機関に配布し、受給資格者及び貸付対象者に対し周知徹底を図る。

また、引き続き、療護センターの業務に関するパンフレットを脳神経外科を主体とした病院等に配布し、患者家族等への周知徹底を図る。

- ② 引き続き、各損保会社等に協力依頼し、受給資格者に対し周知徹底を図る。

(6) 自動車損害賠償保障制度についての周知宣伝業務

- ① 引き続き、交通安全フェア等の各種催しにおける展示物及び配布物の改善等により、国や（社）日本損害保険協会等と協力しつつ、自動車損害賠償保障制度の周知宣伝活動を強化する。

- ② 引き続き、都道府県単位で実施されている交通安全等に関する催しに対して、支所単位で参加し、自動車損害賠償保障制度についての周知宣伝を行う。

(7) 情報提供業務

- ① 引き続き、効果的かつ公正なアセスメント事業を実施することにより、自動車メーカーの安全な車の開発意識を高めるとともに、ユーザーが安全な車を選択しやすい情報を提供し、安全性能に係る指標（車種類型別の総合評価（☆の数）の直近2カ年の平均値）（平成16年度）について、認可法人時の最終年度（平成14年度）より、2%以上の改善を図る。

- ② 引き続き、パンフレットの配布について全国の市区町村役場等に協力要請を行い、配布箇所数（平成16年度）を前年度（平成15年度）以上とするとともに、利用者に対する調査を実施し、ホームページの構成の改善により、情報提供の内容の改善を図る。これらにより、ユーザーに対する5段階評価の調査における利用度・満足度に関する評価度（平成16年度）について、4.0以上とする。

- ③ 側面衝突安全性能評価について、評価方法の改良を図るため、新たな試験条件による調査試験を実施し、評価法についての調査研究を行う。

- ④ 前年度（平成15年度）までに実施した試験対象車種の実事故データを調査・収集するとともに、当該車種の評価試験結果との相関関係を解析し、その結果を踏まえて新たなアセスメント事業の改善に資する。
- ⑤ 引き続き、海外のアセスメント関係機関との討論及び情報交換を積極的に行うとともに、自動車の安全性に係る国際会議へ参加し、参加各国の試験方法等の比較検証を行い、その結果を踏まえて今後の我が国の試験方法等の改善に資する。
- ⑥ 引き続き、業務改善状況等についてタスクフォースにより外部評価を行い、その結果をホームページ等で公表する。

3. 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画
別紙のとおり

4. 短期借入金の限度額

予見し難い事故等の事由により資金不足となる場合に限り、短期借入金の限度額1,600百万円とする。

5. 重要な財産を譲渡し、又は担保にする計画
なし

6. 剰余金の使途

剰余金が発生した場合には、独立行政法人通則法第44条第3項の規定による国土交通大臣の承認を受けて、利用者サービス充実のための環境の整備、職員研修の充実に充てる。

7. その他主務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 施設及び設備に関する計画

別紙のとおり

(2) 人事に関する計画

① 方針

サービスその他業務の質の向上を図りつつ、業務全般における業務プ

プロセスの見直しや集約化等を実施し、業務運営の効率化を図ることにより、計画的な削減を行い人員の抑制に努める。

② 人材育成

指導講習業務における講師の育成や適性診断業務のカウンセリング技術の向上を図るため、研修制度を充実し、職員の資質を向上させる。

③ 人員に関する指標

職員数を抑制する。

〔参考〕

1) 平成15年度末常勤職員数	340人
2) 平成16年度末常勤職員数	339人